

マス類の県内需給状況調査

とりまとめ：名倉 盾

本調査は全国養鱒技術協議会提出資料として、県内の養鱒関係者に種苗生産状況を聞き取り調査し、取りまとめたものである。調査内容は、種卵生産量(普通魚・バイテク魚)・種苗生産量(普通魚・バイテク魚)・河川湖沼への放流用種苗数・埋没放流出荷卵数・普通魚の種卵種苗価格・バイテク魚の種卵種苗価格である。このうち、年間種卵生産量、年間種苗生産量、河川・湖沼放流用種苗出荷量、埋没放流用出荷卵数を以下に示した。

1 今回調査した養鱒経営体数

今回調査した経営体は33経営体であった。

2 県内の生産量

平成24年度の年間種卵生産量(表1)、年間普通種苗生産量(表2)、河川・湖沼放流用種苗出荷量(表3)、埋没放流用出荷卵数(表4)は次の表に示すとおりであった。

表1 年間種卵生産量

単位(万粒)

魚種名	普通卵				計	バイテク卵	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月		全雌三倍体	計
ニジマス		304	455	579	1,338	17	17
ヤマメ				134	134		
イワナ				279	279		
アマゴ				130	130		
ブラウントラウト				4	4		

表2 年間普通種苗生産量

単位(万尾)

魚種名	生産尾数(2g換算)
ニジマス	958.1
ヤマメ	137.2
イワナ	130.7
アマゴ	92.2
ブラウントラウト	4.1

表3 河川・湖沼放流用種苗出荷数

単位(万尾)

魚種名	年間放流数
ニジマス	11.2
ヤマメ	28.4
イワナ	21.1
アマゴ	46.0
ヒメマス	31.8

表4 埋没放流用出荷卵数

単位(万粒)

魚種名	年間放流数
ヤマメ	8
イワナ	18.3

3 魚種別生産経営体数

魚種別養殖経営体数と種苗生産経営体数は表5に示すとおりであった。

表5 魚種別養殖経営体数と種卵生産経営体数

魚種名	養殖経営体数	種卵生産経営体数 (%)
ニジマス	19	7 (36.8)
ヤマメ	18	9 (50.0)
イワナ	15	9 (60.0)
アマゴ	13	8 (61.5)
ブラウントラウト	4	1 (25.0)
カワマス	2	1 (50.0)
ヒメマス	4	1 (25.5)
サクラマス	3	1 (33.3)

4 種卵生産量と種苗生産量の経年変化

(ニジマス)

平成24年の種卵生産量は前年比140万粒(9.5%)減の1,338万粒、種苗生産量は前年比47.9万尾(4.8%)減の958.1万尾であった。

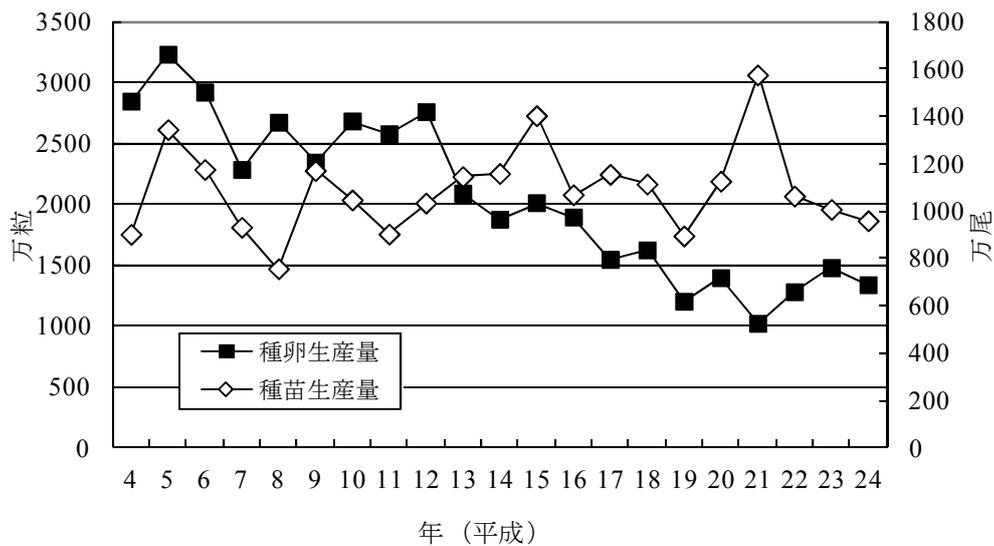


図1 ニジマスの種卵・種苗生産量の経年変化

(ヤマメ)

平成 24 年の種卵生産量は前年比 32 万粒 (19.3%) 減の 134 万粒, 種苗生産量は前年比 24.2 万尾 (21.4%) 増の 137.2 万尾であった。

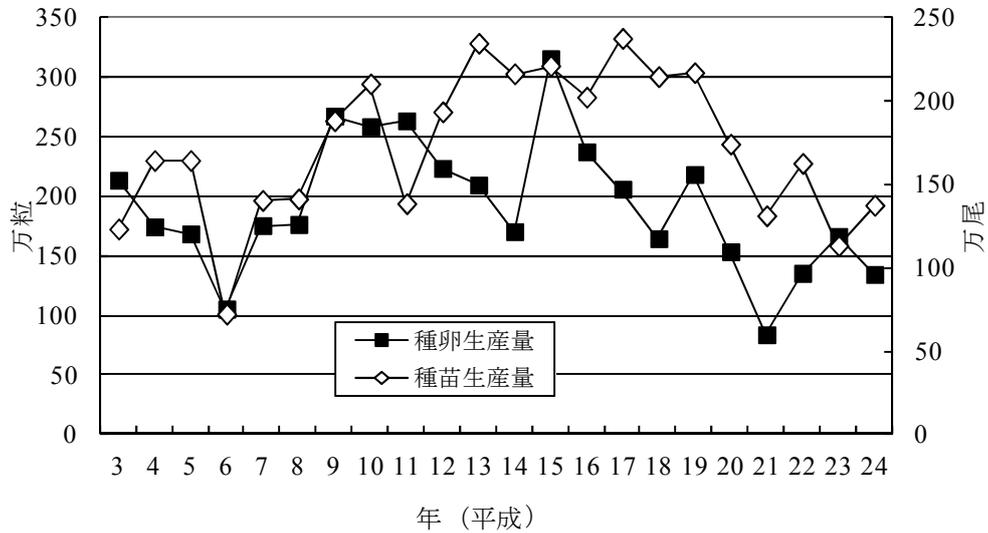


図2 ヤマメの種卵・種苗生産量の経年変化

(アマゴ)

平成 24 年の種卵生産量は前年比 80 万粒 (160%) 増の 130 万粒, 種苗生産量は前年比 31.8 万尾 (52.6%) 増の 92.2 万尾であった。大幅な増産は台風被害からの回復によるものであった。

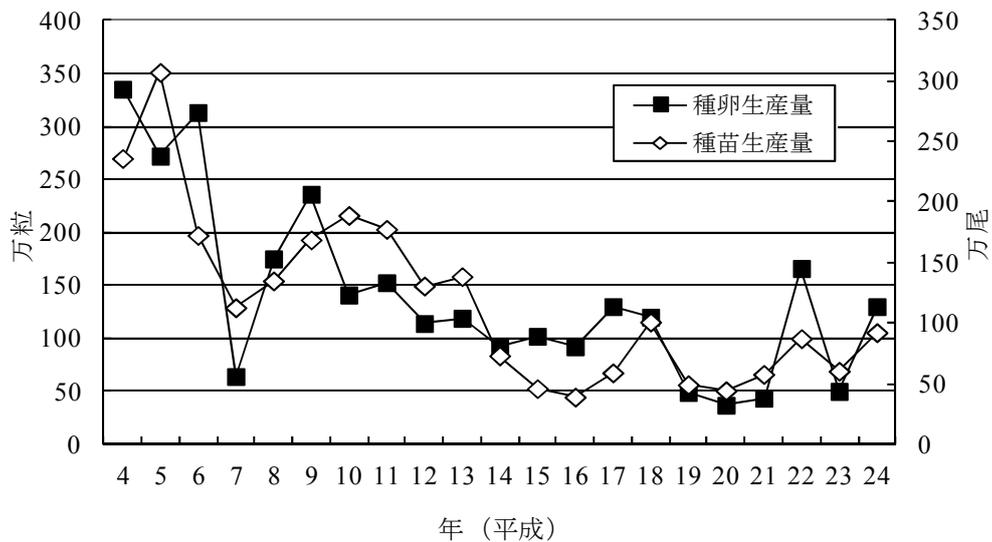


図3 アマゴの種卵・種苗生産量の経年変化

(イワナ)

平成 24 年の種卵生産量は前年比 26 万粒（10.3%）増の 279 万粒，種苗生産量は前年比 12.6 万尾（8.8%）減の 130.7 万尾であった。

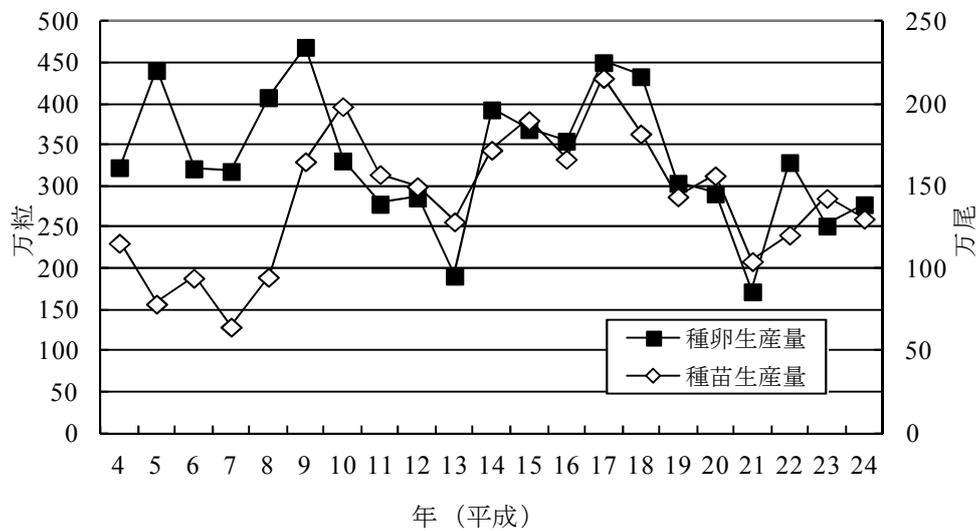


図4 イワナの種卵・種苗生産量の経年変化